

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
小倉リハビリテーション学院		平成16年3月30日		篠崎 康次		〒800-0206 福岡県北九州市小倉南区葛原東2-2-10 (電話) 093-473-8005																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人巨樹の会		平成2年3月20日		藤井 茂		〒811-0213 福岡県福岡市東区和白丘2-1-12 (電話) 092-607-0053																							
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																						
医療	医療専門課程	作業療法学科 昼間コース				平成19年文部科学省告示 第30号	-																						
学科の目的	作業療法士として、必要な知識、技術及び豊かな人間性と職業倫理を習得させ、専門職としての自覚と誇りを持ち、社会に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。																												
認定年月日	平成30年2月28日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
3年	昼間	3150時間	1560時間	600時間	990時間	0時間	0時間																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数		総教員数																							
120	93	0人	8人	19		27人																							
学期制度	■前期 : 4月1日～ 9月30日 ■後期 : 10月1日～ 3月31日			成績評価	■成績表 : 有 ■成績評価の基準・方法 ・単位認定は、当該科目に必要な出席状況と当該科目の評価により、単位認定会議にて決定する。 ・単位修得については、科目を履修しなければならない。 ・評価はA、B、C、Dの4段階とし、C以上を合格とする。																								
長期休み	■学年始 : 4月 1日～ 3月31日 ■夏 季 : 8月12日～ 9月 6日 ■冬 季 : 12月25日～ 1月 3日 ■春 季 : 3月16日～ 3月31日			卒業・進級条件	・教育課程に定められている該当年度の授業科目の単位修得を認定されたものに対し、進級を認定し、全課程の授業科目の単位を修得したものに卒業を認める。																								
学修支援等	■クラス担任制 : 有 ■個別相談・指導等の対応 ミニテストを実施し、早期に学習支援が必要な学生を対象に、支援を行っている。			課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 教科外活動については、学習促進のためのセミナー、施設見学、カンボジア研修旅行、学生間交流会等を行う。 ■サークル活動 : 有																								
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等 (平成30年度卒業生) 病院、医療施設、福祉施設等 ■就職指導内容 就職支援セミナーの開催し、履歴書の書き方や面接指導を行っている。 ■卒業生数 33 人 ■就職希望者数 33 人 ■就職者数 33 人 ■就職率 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数 : 0人			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成31年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業療法士 国家試験</td> <td>②</td> <td>33人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 (平成31年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	作業療法士 国家試験	②	33人	29人												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																										
作業療法士 国家試験	②	33人	29人																										

中途退学の現状	<p>■中途退学者 5名 ■中退率 5.1%</p> <p>平成31年4月1日時点において、在学者97名（平成31年4月1日入学者を含む） 令和2年3月31日時点において、在学者92名（令和2年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 （例）学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等</p> <p>進路変更、健康問題等</p>
	<p>■中退防止・中退者支援のための取組 （例）カウンセリング・再入学・転科の実施等</p> <p>中退者防止については、教科による学習支援、単による面談等の指導、そして、週一回の臨床心理士によるカウンセリングを実施している。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 無 ※有の場合、制度内容を記入</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL） 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構（有効期限：平成31年4月1日～令和6年3月31日） 掲載ホームページ URL： <a href="http://jcore.or.jp/certification.html">http://jcore.or.jp/certification.html</a>（平成30年度 評価認定施設一覧に掲載）</p>
当該学科のホームページURL	<a href="http://kokura-reha.jp/">http://kokura-reha.jp/</a>

（留意事項）

1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ② 「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
- ③ 「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ① 「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ② 「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行って  
いること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業と連携し、最新の技術・知識、必要とされる人材を反映した授業内容の工夫とともに、社会貢献できる人材の育成を目指した臨床  
実習の内容・指導方法の工夫を行っていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学校法人巨樹の会として、教育課程編成委員会を設置し、実践的かつ専門的な職業教育を実践するために、企業等の外部委員と  
連携を図りながら、専門分野に関する意見や要請等を反映する教育課程(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)の  
編成を行う。編成委員会には外部委員だけではなく、学科の責任者が内部委員として参加する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年5月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
近藤 直樹	北九州市立総合療育センター	令和2年4月1日～令和4年3月31日	①
鬼田 勝巳	医療法人 聖心会 久能整形外科消化器科医院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	①
久保 絢史郎	社会医療法人財団 池友会 新行橋病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
川崎 亮佑	社会医療法人財団 池友会 新小文字病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
八重倉 政和	社会医療法人財団 池友会 新行橋病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
加来 遥平	社会医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
佐藤 稔	株式会社 シダー (福岡県作業療法士会理事)	令和2年4月1日～令和4年3月31日	①
森田 大輔	社会医療法人財団 池友会 新行橋病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
河手 武	社会医療法人財団 池友会 新小文字病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
落合 裕之	学校法人巨樹の会 小倉リハビリテーション学院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	
音琴 慎一	学校法人巨樹の会 小倉リハビリテーション学院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	
吉廣 伸隆	学校法人巨樹の会 小倉リハビリテーション学院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	
岡部 貴文	学校法人巨樹の会 小倉リハビリテーション学院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	
林 輝真	学校法人巨樹の会 小倉リハビリテーション学院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	
田熊 希望	学校法人巨樹の会 小倉リハビリテーション学院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	
佐々木 圭太	学校法人巨樹の会 小倉リハビリテーション学院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	
藤末 美枝	学校法人巨樹の会 小倉リハビリテーション学院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	
佐伯 和則	学校法人巨樹の会 小倉リハビリテーション学院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、  
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間開催数) 年2回 (開催時期)3月,8月

(開催日時)

令和2年度：第1回 令和元年8月19日 15:00～17:00 第2回 令和3年2月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会より以下の指摘を受けた。

MTDLPIに関して現状の教育体制やメンタル不調を抱える学生に対する対応について意見交換を行った。

【対応策】

MTDLPIに関して臨床現場では周知不十分な点もあるようだが、学内教育では引き続きカリキュラムに入れ込んで対応していく。  
メンタル不調対策として各学生にストレスコーピング能力を意識させて取り組ませるためにカウンセラーによる講義も実施していく。  
また情意面の教育として、臨床セラピスト協力のもとでの実技試験を継続して行っていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学校法人巨樹の会では、学校と医療・福祉業界が協力して、臨床現場で求められる人材を育成し業界に送り出してきた。特に、実習・演習に関しては業界と連携し、初年次より段階的に業界と連携しながら、知識・技術のみならず医療人としての倫理・態度の育成に力を入れている。また、授業内容においては、業界の最先端の知識・技術について意見交換し、適宜改変を行っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

1年次・2年次には対象者の理解と医療人としてのルール・マナーを学ぶ基礎的な演習を実施し、3年次には、最前線の医療現場を経験し、卒業時に必要な知識・技術及び自己研鑽できる人材育成を実習先と共同し、指導をしている。また、多くの業界現場の経験を得ることを目的として、科目外においても任意で見学及び体験実習を受け入れてもらえるよう整備を行っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	チーム医療について学び、病院で働く理学療法士・作業療法士の仕事や役割について理解する。	株式会社シダー（計6施設） 創造館デイサービスセンター
臨床実習Ⅱ-1	地域包括ケアシステムにおける施設見学や一部の業務補助を体験することで、対象者へ接する「態度」や「対応」を育むとともに、地域包括ケアシステムに関する関連職種役割を理解する。	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション施設等
臨床実習Ⅱ-2	精神科医療機関、認知症関連施設において、精神障害者の障害特性や生活のしづらさ、精神科作業療法の実際など、精神科領域における作業療法士の役割を理解する。	精神科医療機関等（計13施設）
臨床実習Ⅲ	施設において作業療法士の役割・チーム医療について学ぶ。また、情報収集や観察、対象者に適した評価の選択・実施を経験することで学内で学んだ知識を統合する。	福岡新水巻病院・新小文字病院・新行橋病院・原宿リハビリテーション病院・小金井リハビリテーション病院等（計15施設）
臨床実習Ⅳ	情報収集や観察・対象者に適した評価の実施、及び得られた結果の統合と解釈を行い、問題点の抽出、治療目標・治療計画を立案する一連の流れについてより具体的に経験・学習する。	福岡新水巻病院・新小文字病院・新行橋病院・原宿リハビリテーション病院・小金井リハビリテーション病院等（計15施設）

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

医療の専門職として社会貢献できる人材育成のため、授業及び学生に対する指導力向上のため、教員に対し研修会の参加・研究・学会発表に積極的に取り組むよう促している。具体的には、学校法人福岡保健学院主催の教育研修や関連施設と協力した臨床研修及び研究を行っている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「認定作業療法士取得研修 共通研修」

期間: 令和元年8月24日～8月25日 対象: 1名

内容: 管理運営③

研修名「認定作業療法士取得研修 選択研修」

期間: 令和元年11月23日～11月24日 対象: 1名

内容: 身体障害の作業療法⑤ 急性期から在宅までの対象者への作業療法を考える

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「九州作業療法学会」

期間: 令和元年6月22日～6月23日 対象: 3名

内容: Stay Gold ～作業療法士が描く未来予想図for2025～

研修名「初年次教育学会 第12回大会」

期間: 令和元年9月6日～9月8日 対象: 2名

内容: 初年次を超える初年次教育: キャリア形成支援の視点から

研修名「第32回 教育研究大会・教員研修会」

(連携企業等: 全国リハビリテーション学校協会)

期間: 令和元年8月28日～8月30日 対象: 2名

内容: 「卒後と卒前の教育連携」

研修名「第53回 日本作業療法士学会」

(連携企業等: 日本作業療法士協会)

期間: 令和元年9月6日～9月8日 対象: 3名

内容: 作業療法研究のターニングポイント  
(The Turning Point in Occupational Therapy Research)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「九州作業療法学会」

期間: 令和2年6月20日～6月21日 対象: 3名

内容: 作業療法技術の伝承と未来の創造

研修名「初年次教育学会 第13回大会」

期間: 令和2年9月4日～9月5日 対象: 2名

内容:

研修名「第33回 教育研究大会・教員研修会」

(連携企業等: 全国リハビリテーション学校協会)

期間: 令和2年8月27日～8月28日 対象: 2名

内容: 多職種連携のための教育を考える

研修名「第54回 日本作業療法士学会」

(連携企業等: 日本作業療法士協会)

期間: 令和2年9月25日～10月25日 対象: 3名

内容: 作業の魅力・作業の力～暮らしを支える作業療法の効果～

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価を通じ、教育活動及び学校運営を点検し、継続的に改善することにより、社会の変化に対応できる学校組織を目指すとともに、情報公開により学校の透明性向上を図る。また、自己評価・学校関係者評価を行うことを通じて、全教職員が学校の状況や目標・方向性を共有し、教育活動及び学校運営の改善を円滑に推進する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①教育理念・目的・人材育成像の明確化 ②学生・保護者・学校関係者への周知 ③医療・福祉のニーズとの整合性
(2) 学校運営	①事業計画の策定 ②運営組織・意思疎通機能の明確化 ③情報システム化による業務の効率化
(3) 教育活動	①教育理念に沿った教育課程編成・実施方針の策定 ②実践教育の視点に立ったカリキュラム教授内容の工夫 ③医療・福祉実践教育の体系化 ④授業評価実施体制 ⑤教育力向上のための研修の実施
(4) 学修成果	①就職率向上への努力 ②退学率・留年率低減の努力 ③国家試験合格率への努力 ④卒業生の状況を教育活動に反映
(5) 学生支援	①学生相談及就職相談に関する体制整備 ②学生生活指導及び安全管理に関する体制整備 ③高等学校や保護者と連携した指導の取組
(6) 教育環境	①教材及び教育環境改善の取組 ②臨床実習における環境改善の取組 ③防災に関する体制整備
(7) 学生の受入れ募集	①高等学校等への適切な情報提供 ②資格取得・就職状況等の適切な情報提供
(8) 財務	①中長期的な学校の財務基盤の安定 ②予算・収支計画の妥当性 ③会計監査の適切な実施
(9) 法令等の遵守	①法令・設置基準等の順守と適正な運営 ②個人情報保護対策
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校施設を活用した社会貢献・地域貢献 ②学生ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者委員会から教育活動について以下の意見が出された。

- 1.(意見) 講義担当教員の実務経験などの記載が不十分であるため内容の整備をしたほうが良い。  
→(活用) 今後シラバスやホームページなどへの記載を行い公表していく。
- 2.(意見) 学外で高齢者の方や障がいのある方との交流の場をもっと増やしてはどうか。  
→(活用) ボランティア参加への促しを継続していくとともに特別講義等の企画も行っていく。学校関係者委員会から教育活動について以下の意見が出された。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年5月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
吉村 太志	北九州市議会議員	令和2年4月1日～令和4年3月31日	地域住民
岡田 和敏	西南女学院大学 保健福祉学部福祉学科 教授	令和2年4月1日～令和4年3月31日	学術委員
土田 秀夫	福岡県立 小倉東高等学校 校長	令和2年4月1日～令和4年3月31日	高校等評価委員
鳥井 聡	一般社団法人日本海員掖済会 門司掖済会病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	企業等委員
都留 孝治	医療法人 都留内科医院	令和2年4月1日～令和4年3月31日	卒業生
南里 英幸	株式会社 TOP SHIP	令和2年4月1日～令和4年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 7月  
URL:<http://kokura-reha.jp/evaluation/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校全体の教育の質の保証・向上の観点から、以下の内容をホームページで情報公開を行い、学校運営の透明性を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①校長名 ②所在地 ③連絡先 ④学校の沿革 ⑤学校の特色(教育活動・カリキュラム等) ⑥教育目標 ⑦運営方針 ⑧教育指導計画 ⑨学校行事計画
(2)各学科等の教育	①入学者選考の方針及び方法 ②定員数 ③教育課程 ④進級及び卒業要件 ⑤資格取得 ⑥卒業者数及び卒後の進路状況
(3)教職員	①教職員数 ②教職員の組織及び専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育への取組状況 ②企業等との授業等の取組状況 ③就職支援の取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事への取組状況 ②課外活動等の状況
(6)学生の生活支援	①生活支援の取組状況
(7)学生納付金・修学支援	①学生募集及び納付金の取り扱い ②就学支援の内容
(8)学校の財務	①資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表
(9)学校評価	①自己点検及び自己評価報告書 ②学校関係者評価による改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://kokura-reha.jp/evaluation/>



授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 令和2年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			心理学	対人援助職に必要な人間の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を養う。また、リハビリテーション治療過程にかかわる学習理論、動機付けを理解する。	1年前期	30	2	○			○			○		
○			基礎教養	文章の基本となる文章構成を理解し、説得力のある論理的な文章表現力を身につける。また文章表現だけでなく、日常会話でも必要となる敬語表現を身につける。	1年前期	30	2	○			○				○	
○			対人関係演習Ⅰ	医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解する。自己と他者、様々な人間関係の在り方を学び、人間関係におけるコミュニケーション技法を施設演習を通して理解する。	1年前期	30	2	○	△	△	○	○			○	○
○			対人関係演習Ⅱ	フィールドワークを通じてコミュニケーションスキルの実践を行い、自己課題を認識する。対象者を尊重し、共感的態度をもってより良い人間関係を構築できる。	1年後期	30	2	△	○		△	○	○			
○			統計学	基礎的な統計処理を学習し、理学療法に必要な臨床研究の基礎を養う。	2年後期	30	2	○			○				○	
○			情報処理	PCの基本的操作を学び、文章作成及び表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いた実習を通じ、研究、レポート作成に必要なデータ処理、統計分析の手法を学習しリハビリテーション研究の基礎を養う。	2年後期	30	2				○	○			○	
○			物理学	物体の運動を通じて物理現象を理解し、科学的な見方・考え方を身に付け、リハビリテーション臨床場面における科学的思考の基礎を養う。	1年前期	30	2	○			○				○	
○			解剖学Ⅰ	正常な人体の動物機能にかかわる骨・筋及び神経系の形態と構造を理解する。	1年前期	30	2	○			○				○	
○			解剖学Ⅱ	正常な人体における神経系の形態及び構造を理解する。正常な人体における生物系機能並びに意識的感覚や精神機能にかかわる形態・構造を理解する。	1年後期	30	2	○			○				○	
○			生理学Ⅰ	生理学の基礎である細胞生理を理解したうえで、人の生理学的（植物）機能を理解する。	1年前期	30	2	○			○				○	





○		基礎評価学演習Ⅳ	作業療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。	2年後期	30	1	△			○	○							
○		臨床評価学演習Ⅰ	基礎評価学演習Ⅰで学んだ内容について理解したうえで、健常者を対象に実施できることを目標として技術の習得を図る。	1年前期	30	1				○	○							
○		臨床評価学演習Ⅱ	基礎評価学演習Ⅱで学んだ内容について理解したうえで、健常者を対象に実施できることを目標として技術の習得を図る。	1年後期	30	1				○	○							
○		日常生活活動学演習Ⅰ	日常生活の基本として遂行される動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、ADL障害に対して動作の支援、援助方法を理解し実践する。さらに障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。	1年後期	30	1	△	○	△	○								
○		日常生活活動学演習Ⅱ	self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。さらにADL評価の意義および検査方法を理解する	2年前期	30	1	○		△	○								
○		義肢学	切断患者のリハビリテーションの流れを理解するために、切断の原因、義手の種類、適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ。	1年後期	30	1	○			○								
○		装具学	装具学では、装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できることを目標とする。	2年前期	30	1	○	△		○								
○		高齢期の作業療法	高齢期における生理的老化・認知症の理解と作業療法について学ぶ。	2年後期	30	1	○			○								
○		中枢神経疾患の作業療法学Ⅰ	脳血管障害の発生機序と障害像を把握した上で、急性期・回復期の作業療法を理解する。	2年前期	60	2	○		△	○								
○		中枢神経疾患の作業療法学Ⅱ	脊髄損傷・小脳疾患・神経筋疾患等の作業療法について学ぶ。	2年後期	30	1	○			○								
○		運動器疾患の作業療法学	整形疾患（骨折、関節疾患、末梢神経損傷、腱損傷など）の原因、病理、症状を理解し、作業療法評価および治療について学ぶ。	2年後期	60	2	○			○								
○		内部障害系疾患の作業療法学Ⅰ	代謝疾患および循環器疾患の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	2年前期	30	1	○			○								
○		内部障害系疾患の作業療法学Ⅱ	呼吸器疾患および悪性腫瘍の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	2年後期	30	1	○		△	○								

○		小児疾患の作業療法学	小児期に発症する疾患について、疾患の知識及び派生する障害像を理解するとともに、それに対するリハビリテーションの流れおよび作業療法を理解する。	2 年 前 期	30	1	○			○									
○		精神障害の作業療法学Ⅰ	認知症高齢者を含む精神医療における現状、利用できる制度及び社会資源を理解する。また、精神疾患の対象理解とリハビリテーションの概念を踏まえ、作業療法理論と構造、技術及び作業療法評価の基礎を理解する。	2 年 前 期	60	2	○			○									
○		精神障害の作業療法学Ⅱ	精神障害領域の作業療法の対象となる疾患の臨床像と精神特性、疾患別作業療法の治療の方法について理解する。	2 年 後 期	60	2	○			○									
○		高次脳機能障害の作業療法学	高次脳機能障害の神経心理学的評価方法を習得し、生活障害の特徴を理解する。外傷性脳損傷を含み高次脳機能障害者の全体像を把握し、作業療法介入の方法を理解する。	2 年 後 期	30	1	○			○									
○		作業療法学技術演習Ⅰ	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床場面で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、骨関節疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の作業療法行為を段階的に学ぶ。	2 年 前 期	60	2				○									
○		作業療法学技術演習Ⅱ	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床場面で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、中枢神経系疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の作業療法行為を段階的に学ぶ。	2 年 後 期	60	2				○									
○		作業療法学総合学習Ⅰ	臨床実習の経験を元に、国家試験の基礎となる専門基礎科目の知識の定着を図る。	3 年 後 期	60	2				○									
○		作業療法学総合学習Ⅱ	臨床実習の経験を元に、理学療法士として必要な知識を獲得し、基礎専門領域・専門領域の統合を図る。	3 年 後 期	60	2				○									
○		理学療法学総合学習Ⅲ	臨床実習の経験を元に、作業療法士として必要な知識を獲得し、基礎専門領域・専門領域の統合を図る。	3 年 後 期	60	2				○									
○		生活環境学	障害や各福祉用具の特徴を理解した上で、生活環境の評価と住環境整備の流れを理解する。	2 年 後 期	30	2	○				○								
○		地域作業療法学演習	地域作業療法の実地を知り、地域リハビリテーションについての理解を深める。	2 年 後 期	30	2	○	△			○								

○		臨床実習Ⅰ	チーム医療について学び、病院で働く理学療法士・作業療法士の仕事や役割について理解する。	1年後期	45	1				○	○	○	○
○		臨床実習Ⅱ-1	地域包括ケアシステムにおける施設見学や一部の業務補助を体験することで、対象者へ接する「態度」や「対応」を育むとともに、地域包括ケアシステムに関与する関連職種の役割を理解する。	2年後期	45	1				○	○	○	○
○		臨床実習Ⅱ-2	精神科医療機関、認知症関連施設において、精神障害者の障害特性や生活のしづらさ、精神科作業療法の実際など、精神科領域における作業療法士の役割を理解する。	2年後期	90	2				○	○	○	○
○		臨床実習Ⅲ	施設において作業療法士の役割・チーム医療について学ぶ。 また、情報収集や観察、対象者に適した評価の選択・実施を経験することで学内で学んだ知識を統合する。	3年前期	360	8				○	○	○	○
○		臨床実習Ⅳ	情報収集や観察・対象者に適した評価の実施、及び得られた結果の統合と解釈を行い、問題点の抽出、治療目標・治療計画を立案する一連の流れについてより具体的に経験・学習する。	3年前期	450	10				○	○	○	○
合計		64科目			3150単位時間 (126単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：すべての授業科目の単位修得を認定された者		1学年の学期区分	2期
履修方法：講義・演習・実習により履修する		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。